

みんなで「つくり」「守り」「育てる」公共交通

# バスや電車に乗って出かけよう

路線バスのなくなった飯村校区東山地域で、昨年7月、地域が運営するバスが運行を開始しました。

また、12月には路面電車に全面低床車両（LRV）

「ほつトラム」が導入されました。

現在進められている

「公共交通の活性化・再生に向けた取り組み」から、

みんなで「つくり」「守り」「育てる」公共交通

について考えてみましょう。

問合せ先 都市計画課 (☎) 51・2620 (FAX) [http://www.city-toyohashi.aicchi.jp/bu\\_toshikeikaku/toshikeikaku/toshikoutuu/](http://www.city-toyohashi.aicchi.jp/bu_toshikeikaku/toshikeikaku/toshikoutuu/)



(上) 豊橋医療センターに到着した東部東山線「やまびこ号」  
 (右) 昨年12月19日に行われた「ほつトラム」発車式。佐原市長の合図で発車しました

# 公共交通のない地域が増えていきます

過度な自動車の利用により、渋滞や交通事故、地球温暖化などの問題が発生している今、解決策の一つであるバスや電車などの公共交通が見直されています。しかし、現実的には、利用者の減少などで廃止となるバス路線が増え、公共交通のない地域が拡大し、自動車を運転できない人の移動手段の確保が大きな課題となっています。

## 路面電車利用者は徐々に増加、路線バス利用者は昭和45年度の4分の1

豊橋市では、鉄道や路面電車、路線バスの路線網が豊橋駅を中心とした放射状に形成されています。平成13年の調査(第4回中京都市圏パーソントリップ調査)によると、豊橋市での代表的な交通手段は、自動車が65・1%で、鉄道は6・0%、路線バスは0・9%となっており、中京都市圏全体と比べて公共交通の利用率は低いと言えます。

公共交通の利用者数(下記)は、渥美線では過去約40年間でほとんど変化はなく、路面電車では平成16年度から徐々に増えています。しかし、路線バスの利用者は昭和45年度の4分の1にまで減少し、現在もその傾向は続いています。そのため、

不採算路線が廃止され、公共交通のない地域が拡大しています。

## 公共交通の活性化・再生を目指して

市は、「誰もが公共交通を利用しやすいまち」を目指し、地域の状況に応じた公共交通施策を市民・交通事業者・行政の連携と協働により取り組んでいくため、「豊橋市地域公共交通活性化化方策」(下記)を平成18年に策定しました。現在、この方策をもとに、さまざまな取り組みを行っています。

市は、複数の交通事業者によって運行されている公共交通の情報をまとめた「公共交通マップ」の作成や、特に利用者の減少が著しい路線バスの利用啓発を目的としたイベント「とよはしバスの日」の開催などに取り組んでいます。また、交通事業者は、駅や電停の周辺での、自動車・自転車から公共交通への乗り継ぎのための駐車場・駐輪場整備や、季節に応じた「なのはな号」や「ピール電車」「おでんしゃ」などの運行、路線バスの増便や運行時間帯の見直しなどに取り組んでいます。

次のページからは、最近行った主な取り組みについて紹介します。

### ■豊橋市地域公共交通活性化方策「5つの取り組み」

※ ( ) 内は実施主体

#### 地域とともに公共交通を確保する仕組みづくりを行う

- ・公共交通確保に向けた組織づくり (市民、行政)
- ・「地域生活」バス・タクシーの実証運行 (市民、行政)
- ・生活バス路線の維持 (交通事業者、行政)

#### 住民意識の高揚を図る

- ・交通意識の変革の促進 (行政)
- ・利用啓発イベントの実施 (市民、交通事業者、行政)

#### 利便性向上の取り組みを行う

- ・バス路線ネットワークの見直し (交通事業者、行政)
- ・運行時間帯の見直し (交通事業者、行政)
- ・公共交通専用・優先レーンの設置 (交通事業者、行政)
- ・駅、停留所(場)のグレードアップやバリアフリー化 (交通事業者、行政)
- ・パークアンドライド、サイクルアンドライドの推進 (交通事業者、行政)
- ・低床車両の導入 (交通事業者、行政)
- ・フリー乗降制度の導入 (交通事業者、行政) など

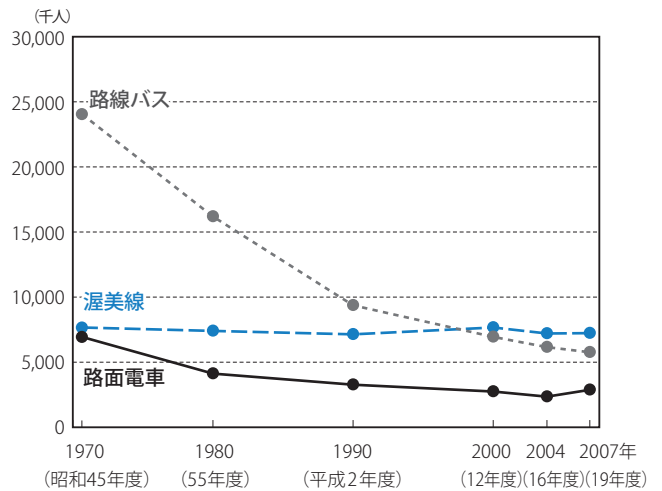
#### 利用促進に向けた取り組みを行う

- ・多様な運賃制度の導入 (交通事業者)
- ・ICカード化 (交通事業者、行政)
- ・路線マップや沿線の地域情報の提供 (交通事業者、行政)
- ・わかりやすい公共交通情報の提供 (交通事業者、行政) など

#### 連携・協働に向けた取り組みを行う

- ・公共交通の活性化に向けた組織づくり (市民、交通事業者、行政)
- ・公共交通機関相互(交通事業者間)の連携 (交通事業者) など

### ■公共交通の輸送人員の推移



豊橋市公共交通マップ2008年度版





## 全面低床車両「ほつトラム」導入

路面電車を守る時代から  
育てる時代へ

### 路面電車の廃止が続いている現実

路面電車は明治28年に登場し、最盛期には50都市以上で運行されていましたが、自動車の普及に伴い、昭和40年代になると姿を消していき、今では全国17都市で残っているだけです。

豊橋市で走っている路面電車は、大正14年の開業から市民の足として「市電」の愛称で親しまれています。利用者数は、昭和38年度の年間約95.7万人をピークに年々減少し、平成15年度には約260万人にまで落ち込みました。そのため、交通事業者の経営状況は大変厳しくなり、この傾向が続けば、路線の存続さえ危ぶまれていました。

### 市民・交通事業者・行政がスクラム

このような状況の中、市は平成11年度に「路面電車活性化研究会」を立ち上げ、施設改良への支援策など、利用促進につながる取り組みを進めてきました。一方、豊橋鉄道(株)はさらなる利用促進とバリアフリー化を目指して、平成17年度に学識経験者、市民、交通事業者、行政関係者などで構成する「豊橋市路面電車活性化推進

協議会」を発足させ、全面低床車両の導入を中心とした「豊橋路面電車活性化事業計画」を作成しました。

### 多くの市民や企業などの協力で、

### 「ほつトラム」がついにデビュー

「豊橋路面電車活性化事業計画」には、全面低床車両の導入に備えての安全島がなく危険な競輪場前電停の改良や、市役所前電停などのバリアフリー化なども含まれており、路面電車の安全性や快適性を高めてきました。

そして、昨年12月19日、市民や交通事業者、行政が一体となった熱い取り組みにより全面低床車両「ほつトラム」がついにデビューしました。車両価格は約2億5千万円で、4分の3近くは国や愛知県、市からの補助で賄われており、その中には多くの市民や企業、豊橋商工会議所、「とよはし市電を愛する会」などの市民団体などからの寄附が含まれています。

路面電車の走る風景は豊橋市の特色のある景観をつくり出し、路面電車は「まちの『顔』」となっています。東海地方に唯一残る路面電車を一層大きな「地域の財産」として守り、育て、また市民が路面電車の良さを再認識できるよう、交通事業者と協働して活性化や再生に向けたさまざまな取り組みを行っていききたいと考えています。



駅前電停を出発する「ほつトラム」



乗り降りしやすい乗降口



バリアフリー化された電停



床はすべて段差がなくバリアフリー

### 全面低床車両「ほつトラム」

昨年12月に導入された、豊橋オリジナルの全面低床車両。約1時間ごとに駅前電停と赤岩口電停を往復しています。

詳しくは豊橋鉄道(株)ホームページ (<http://www.toyotetsu.com/>) をご覧ください。



# 「みんなで」「守り」「育てる」

## 市民、交通事業者、行政が手をかり合って

これからは、地域にあった公共交通とはどのようなものか考え、公共交通を「地域の財産」として守り、生かす方策などを、市民、交通事業者、行政が一緒になって実施していく必要があります。

今ある公共交通の活性化については、利用者や沿線住民が利用しやすくなるようニーズを把握し、交通事業者と市が協働して利用促進につながる取り組みを実施します。

そして、公共交通がない地域については、地域住民と市が協働して、地域の状況に応じた「新しい公共交通」の実現に向けて取り組んでいきたいと考えています。

## 自動車に乗れなくなったら、どうしますか？

現在、自動車を主な交通手段にしている方も、将来、自動車に乗れなくなったら公共交通を使うと思います。今起こっている事はひとつではありません。東部東山線のように「なくなつたもの」を取り戻すことは、大変難しいことです。「公共交通がなくなる」ということを自分の問題として感じ、できるだけ公共交通を使ってみてください。

## 自動車と公共交通のかしこい使い方を考えてみませんか

豊橋市内の公共交通のうち、鉄道や路面電車、一部のバス路線については、運行本数が多く、運行時刻をあまり気にせず利用できますが、バス路線の多くは運行本数が限られています。そこで、時間に余裕がある時や天気が良い日などに自分の行動を公共交通に合わせてみませんか。皆さんの普段の外出で、自動車を10回使ううち、1回でも公共交通や自転車などを使うだけで、交通問題や環境問題などの解決につながります。

道路渋滞や環境、個人の健康などの問題に配慮して、「過度にクルマに頼る状態」から「公共交通や自転車などをかしこく使う状態」へと少しずつ自発的に転換することで、さまざまな問題が改善され、社会がより豊かになるのではないのでしょうか。皆さんも一度、自動車と公共交通のかしこい使い方を考えてみてください。市は「自動車と公共交通のかしこい使い方（モビリティ・マネジメント）」に関する取り組みを行っています。詳しくはホームページをご覧ください。

## 東部東山線や電車に乗って出かけよう

路面電車と東部東山線、JR東海道線を使うと豊橋市の中心から東部を一周でき、いろいろな事に利用できます。また、沿線にはおすすめスポットがいっぱいです。

### ■東部東山線を使って

- ①豊橋医療センターへ
- ②市が設置している「健康の道」(岩屋展望コース、二川宿歴史・文化コース、二川里山・森林浴コース)へ
- ③二川宿の散策や豊橋総合動植物公園のんほいパークへ

### ■路面電車沿線の多くの観光スポットへ

#### ①赤岩口電停から

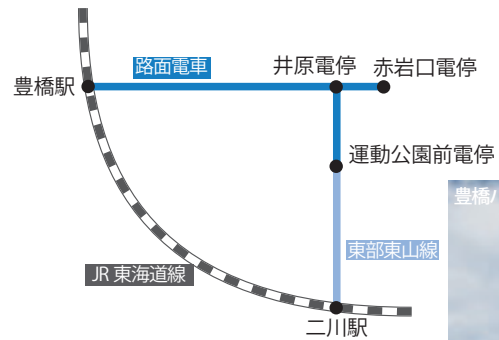
多くの文化財が収納されている赤岩寺へ

#### ②豊橋公園前電停から

現存する愛知県下の正教会の中で最古の聖堂(国の重要文化財)を持つ豊橋ハリストス正教会、国の重要無形民俗文化財の「鬼祭」が行われる安久美神戸神社、豊橋市美術館へ

#### ③市役所前電停から

豊橋市公会堂(国の登録文化財)、吉田城址へ



豊橋ハリストス正教会



二川宿本陣



のんほいパークのホッキョクグマ

